

おかえりなさい、懐かしの母校へ

東北学院ホームカミングデー

今回から本学院全ての同窓生を参加対象とした第十二回ホームカミングデーが、十月十五日、修復を終えたばかりのラーハウザー記念礼拝堂で開催された。

記念礼拝で佐々木宗教部長は、「苦難と忍耐から生まれる希望は私たちに欺かない」と説いた。

続く記念式典では、卒業生を代表して、甚大な被害を受けた南三陸町で懸命な医療活動を続け、「世界で最も影響力のある百人」の一人に選ばれた内科医・菅野武氏（平成10年高校卒）が挨拶。重い体験を振り返りながら、「亡くなられた人々の命を大切に思うことで今日を強く生きられる」と語った。

式典後、百二十五周年記念として結成された中高大の生徒と学生、OB・OGらによる合唱隊に4人のソリストを迎えて、「オラトリオ《メサイア》より（G.F.ヘンデル作曲）」が演奏された。

押川記念ホールでは、TBS元アナウンサー・鈴木俊光氏とフリーアナウンサー・志伯暁子氏によるトークライブが行われた。

「懐かしい出会いの夕べ」は江陽グランドホテルで開催。約〇〇〇人が参加した。

星宮同窓会長は「復興と鎮魂を祈るために開催を決意した」と語り、卒業生代表の斎藤欣也氏（気仙沼支部長）は「被災地への継続的な支援を」と挨拶した。懇親会は音楽と語らいの中で終始笑顔に包まれていた。